

# 令和2年度のまちづくり予算

一般会計では、伸び率の最も大きいのが土木費。対前年度比125%となっています。  
その主な要因は、京阪本線連続立体交差事業の約45億円と対馬江大利線事業の約33億円です。

## 【前年度との比較】

- |           |                      |            |          |
|-----------|----------------------|------------|----------|
| ①土木費 125% | ②諸支出金(基金への積み立て) 123% | ③教育費 114%  |          |
| ④衛生費 112% | ⑤総務費 106%            | ⑥衛生費 99%   | ⑦議会費 98% |
| ⑧消防費 98%  | ⑨公債費 95%             | ⑩産業経済費 75% |          |

「まちづくりの予算」で計上された事業を、抜粋してご報告いたします。

## ○道路の修繕

市道の舗装修繕計画に基づき、年次的に取り組まれております。

新年度は、5000万円の予算で8路線の舗装が予定されています。

- |        |               |         |            |
|--------|---------------|---------|------------|
| ・日新太間線 | ・太秦桜ヶ丘打上中町1号線 | ・西八坂早子線 | ・寝屋川右岸線    |
| ・八坂松屋線 | ・太秦元町打上元町1号線  | ・本町幸線   | ・寝屋川導水路右岸線 |

私道の舗装の助成金としては、600万円の予算が計上されています。

## ○空き家のリノベーションで転入促進

市外から転入する子育て世帯を対象としたものです。

令和元年度予算にあった「結婚新生活支援事業」と「三世代定住支援補助金」を廃止した上で、事業を見直すと言われていたもので、それらに代わって提案された事業です。

市内にある約1200軒の空き家の内、約700軒は利活用可能だと行政では捉えています。それらを有効活用するために、所有者が物件を市場に流通することができないと考えている要因があるのであれば、その阻害要因を解消する手伝いを専門家集団(※)が行います。

(※専門集団とは…不動産業、建築士、司法書士、土地家屋調査士、銀行などのプラットフォーム)

そして、その物件を市外子育て世帯が購入する際、希望すれば、有名建築家などを紹介した上で設計・管理費用の補助や、リノベーション・リフォーム工事の補助を行う予算です。

## ○池田本町第2歩道橋(総合センター前)の修繕

計画的に歩道橋の修繕を行ってきています。

令和元年度の当初予算でも、総合センター前の歩道橋の修繕予算がついていました。実は、国の補助金の関係で、池田東町歩道橋(玉出前)に変更となっていました。2年度は、再チャレンジです。

委員会では、総合センターと玉手の間にある歩道橋のことも話題に上がりました。その理由は、サンディ前の道路を横切る人が増え、危険度が高まっているからです。地元自治会から「サンディ前の安全対策」についての要望が出ているとのこと。それらの状況を踏まえ、警察と寝屋川市で安全対策についての協議が行われている旨の回答がありました。

## ○最後となるブロック塀の撤去補助

大阪北部地震をきっかけに取り組みが始まったブロック塀の撤去。2年度予算で最終となります。

通学路に面している場合、補助額を40万円に引き上げ、件数も55件に増やし、促進を図っています。

通学路でない道路の場合、補助額20万円、70件分の予算計上です。

## ○池田1号(ABC)公園に雨水貯留施設設置へ

浸水の発生しやすい内水域では、降った雨を一時貯めて河川や下水道の負担を軽減する目的で、雨水貯留施設の設置を小中学校のグラウンドを活用して整備してきておりましたが、その取り組みは終了しました。

次の対策として、比較的広い公園を利用した貯留施設に取り組みます。

2年度は、池田1号公園が対象となり、その設計の予算が計上されました。公園面積の1/3程度を利用することになりそうです。

## ○水道管の耐震化と更新

高度経済成長期に整備された水道の施設や管路が更新時期を迎えています。水道では、数年間を1期とする「施設等整備事業計画」を作成し、計画的に取り組んでおります。昨年度までの第9期事業計画(平成28年度～令和元年度)では、優先して配水場や配水池などの施設の更新と耐震化に取り組み、耐震化率100%となりました。

新たな計画となる第10期事業計画(令和2年度～8年度)は、管路を中心に取り組んでいくこととなります。配水管の工事は、今までの約1500m/年を上回る約3500m/年に延伸されます。

水道管の更新工事に伴って道路が舗装されることも利点の一つです。

## ○府道枚方富田林泉佐野線の拡幅へ

寝屋川公園駅前線から明和小学校にかけての227mの区間を拡幅する(車道6m、歩道3m)ために取り組んでおります。

2年度は、用地購入費や物件移転補償費の役億円が予算化されました。この道は、大阪府の道路ですので、事業は寝屋川市が取り組みますが、費用は大阪府が支払うこととなります。3年度に工事予定です。

## ○京阪連続立体交差事業

物件の移転補償124件、用地購入17件が予定されています。順調に進めば、2年度末の用地取得は89%になる見込みです。

香里園駅南側一步通行の駅近くで、解体工事がまとまって予定されていることから、地元地域の要望に応える形で、さらなる安全対策にも取り組みます。

また、事業の公共性に鑑み、スケジュール管理が重要になります。そこで、交渉が難航する場合に備えた収用委員会への裁決の申請を視野に入れた準備に取り組む予算も計上されました。

## 注目事業① 乗り合いワゴン

本市の新たな公共交通のあり方として提案されたのが「乗り合いワゴン」です。公共交通機関の空白地を含む3地域で12月20日から実証実験が行われています。

【12月から2月までの1日当たりの利用者数】

	成田地区		仁和寺地区		河北地区	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
12月	3.0件	4.5人	3.3件	5.5人	1.3件	2.5人
1月	3.7件	4.6人	4.5件	7.4人	1.6件	3.3人
2月	9.7件	11.7人	8.4件	12.4人	4.5件	9.1人
累計	6.1件	7.6人	6.0件	9.2人	2.8件	5.6人

この3地域の運転手にかかる費用は、12月から3月まで約500万円(予算ベース)であることから、各地区で1人を運ぶ経費は以下ようになります。

成田地区 …1515円      仁和寺地区…1252円      河北地区 …2057円

令和3年度から本格的に市内各地域(約20地域を想定)に導入していきたい意向が市にはあります。しかしながら、委員会の審議の中では、「実証実験として運行する事業者の入札が、不調となったこと」「これまでの利用実績に基づいた費用対効果」「利用しない理由」「既存のバスやタクシーへの民業圧迫という懸念」などの厳しい指摘がありました。

75歳以上の高齢者数が増えていくことから、移動手段の確保については充実しなければなりません。代表質問では、「5年後、10年後の、高齢者人口が確実に増加する、将来を見据えた事業展開を考えており」との答弁ですが、現状の実績数値を見る限り、ニーズの性質・目的に合ったものでないと受け止めざるを得ません。交通施策の必要性は理解するものの、その方法論については煮詰まっていない状況です。

## 注目事業② 2軸化構想

2軸化構想とは、『京阪沿線の「京阪軸」に加え、JR学研都市線沿線の「学研都市軸」のまちづくりを積極的に進め、そこに子育て世代を中心とした担税力に富む若い世代をターゲットとして誘致することで、市内全域の人口の年齢構成のリバランスを行い、税収の構造を安定化させる』というものです。

その考え方をもち、新たに開発の可能性のあるエリアを抽出する調査(委託料 約900万円)が行われておりましたが、結果が出てまいりました。

### 【新規ポテンシャルエリアの候補地】

- ① 京阪寝屋川市駅北地区
- ② JR寝屋川公園駅周辺
- ③ 寝屋川公園北地区 (市街化調整区域)
- ④ 寝屋二丁目地区 (市街化調整区域)
- ⑤ JR寝屋川公園駅西地区 (市営住宅再編地区)
- ⑥ 梅が丘地区 (市街化調整区域)
- ⑦ 幸町地区
- ⑧ 京阪萱島駅周辺地区 (萱島讃良線沿道)
- ⑨ 京阪香里園駅周辺地区 (連続立体交差事業沿道)

課題としては、どの地域においても「地権者の意向」がまず第一に挙げられます。

地権者の賛同が得られたとして「市街化調整区域を開発することが可能か」という問題があります。

また、「⑧は事業化ができていない路線」「⑨は令和10年度に工事完成」というスケジュール感の問題。

候補地全体としては、「目新しい候補地が少なかったこと」「第四中学校区の小中一貫校の規模増大に比較して新住民を呼び込む地域が限定され、想定通りの児童生徒数の増加が見込めないこと」などです。

小中一貫校は基本設計・実施設計に取り組むことから、早急に対象地域の具体的な考えをまとめる必要があります

### 【今後の動きとしての代表質問に対する答弁】

- ①京阪寝屋川市駅北地区 「渡り廊下設置により駅と直結し、市民サービスのための都市機能、商業施設、医療施設、マンションからなる高層複合施設整備の可能性について、積極的に検討する」
- ②JR寝屋川公園駅周辺 「駅から公園が一体となるゲートタウン構想とし、マンション、企業誘致による職住近接のまちづくり等、あらゆる可能性を探り、新住民の最適な受け皿をつくる」

「上記の2地区と、③と④の地域においては、事業化に向けた地権者の意向調査や事業収支等を行い、(合意の整った地域から)順次協議会の発足を目指します。」

「事業のスケジュールについては、市街地再開発事業や土地区画整理事業において、協議会の発足後、概ね9年の完成を見込んでいます。」

シリーズ  
ねやがわ中

## 丘の上の「太秦遺跡」

弥生時代は、農耕生活に適した低地に集落が営まれていたが、なぜか台地上や山腹で生活した「高地性集落」が出現し、「太秦遺跡」は河内では代表的である。

太秦高塚町の標高50メートル付近一帯約8ヘクタールには、石鏃(やじり)、石槍、石剣などの武器や、包丁や斧などの大陸系の磨製石器などが見つかっている。

淀川の対岸の高槻市にも、3つの高地性集落が営まれていることから、高地が軍事的な防御機能に優れていることで造られたと考えられている。

太秦遺跡は、低地の大規模集落であった高宮八丁遺跡の人々が造ったと考えられており、弥生中期頃には、高宮八丁の人々は太秦の丘陵地に移住したと考えられている。